

みんなの「なんな一の？」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.74



ライチョウに

会ったよ

信毎こども記者クラブは7月11日、大町市の市立大町山岳博物館(山博)で取材教室「ライチョウに会いに行こう」を開きました。山博は、長野県など中部地域の高い山だけにすむニホンライチョウの研究を続けており、今年7月に、にた種類のスバルバルライチョウが来て、ニホンライチョウが絶めつしないよう、取り組んでいます。

ライチョウの1年の生活



ライチョウの1年の生活では、最初に地面の上に巣を作り、たまごをうんで、メスが温める。10月下旬には雪がふるから、早く親鳥と同じ大きになり、冬をすごす。冬になると羽根の色が白になり、てきから自分の身を守る。冬がおわり、6月になるとまたたまごをうみ、ライチョウの1年の生活が始まる。たまごはめすがうんだので、温めるのはおすだと思っただけれど、ぎゃくに、おすはなわばりを作って巣の周りを守っているの、おどろいた。
ライチョウはほかの鳥とはちがい、まるみがあつてとてもかわかった。 長野市4年 木村玲菜記者

ペレットはまっ茶のような味



市立大町山岳博物館でスバルバルライチョウの観察などをしました。
ニホンライチョウは高山植物を食べます。ここでは、スバルバルライチョウのえさはコマツナ(青菜)とペレットです。1日にペレットを40グラムほど、コマツナは一たばの半分ほどを食べるそうです。
ペレットは干し草でできていて、ミネラル・ビタミンが配合されています。人間が食べることもできます。食べてみると、まっ茶のような味あまりおいしくありませんでした。 大町市6年 仁科真清記者

目がくりくりでかわいい



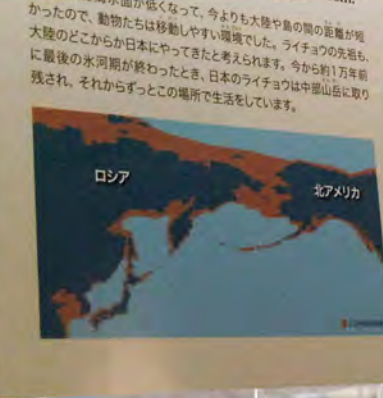
ライチョウの目がくりくりしていて、かわいかったです。ライチョウのえさをたべてみました。まずかったです。ウサギのえさみたいで、ペレットというまえてした。
かっているへやを見たら、くうきせいじょうきなどがありました。ふつうのへやだとおもっていたら、ちがったので、びっくりしました。
安曇野市2年 福田晃大記者

にんげんを見てもにげない



ニホンライチョウがにんげんのすがたを見てもにげないときいてびっくりしました。冬にはすがなくて、夏にすをつくってこそだてをします。
いま、スバルバルライチョウで、ニホンライチョウをかうためのじっけんをしています。ニホンライチョウはくさのところにいる。スバルバルライチョウはいわがあるところ。
りょうほうとも、うもうがはえかわります。ニホンライチョウは春はグレー、夏はちゃいろ、冬は白のうもうです。1年に3かいかわります。冬は、ゆきにもぐってかくれます。 大町市2年 仁科悠佳記者

日本へはどうやって来たの?



もっと不思議を見つけたい



ニホンライチョウは、地球があたたかくなるなどで、2000羽以下になってしまいました。山博では、数の多いスバルバルライチョウでためしています。
スバルバルライチョウやニホンライチョウは、天敵におそわれにくくするために、季節でいろいろな色に羽をはえかわらせています。スバルバルライチョウは年2回、ニホンライチョウは3回です。
ライチョウは植物が主食です。山博では高原植物は食べさせられないので、ほしくさとミネラルなどが入ったペレットや、小松菜をあげています。子育て中のめすは、おやつにこん虫も食べます。
植物を食べる時は、口を開けて、つまんで引きます。どうしてそうやって食べるのか不思議に思いました。もっとそういう不思議を見つけたいです。
長野市5年 一柳豪記者